



学校プールの在り方

櫻井 隆



問 以前の「今後の学校プールの在り方」の質問に対し、「今のプールを大事に使いながら、どういう方向性があるのか検討し、調査研究していきます」と答弁している。その後の検討内容について伺う。

教育次長 老朽化した学校プールを廃止し、民間スイミングスクールや市営プールなどを活用し、プールの耐用年数等を踏まえ、今後の在り方を研究しています。

問 平成30年度の維持管理費を伺う。

教育次長 小学校、中学校合計で、2191万9918円です。

問 今年度の水泳の授業日数を伺う。

学校教育課長 小学校で平均9・3日、中学校では平均12・5日授業で使っています。夏休みのプール開放については、小学校で平均6・25日、中学校では平均2・5日開放しています。

問 学校のプールは授業で使用する期間が夏場の約2カ月間に限られる。子どもたちにとって指導面でのさらなる充実や、よりよい施設環境の下で授業を行うため、民間プール施設の活用を第1選択肢として検討してはどうか。

教育長 岩沼市内の周辺でどの施設が使えるか検討はしています。特に研究を深めながら、地域の皆様のご理解を得ながら時間をかけてやっていきます。

問 第2選択肢として、センター方式による授業の実施を検討してはどうか。

教育長 プールの状況を見ながら可能性は探っていきます。

検討委員会を設置しては

問 今後1校1プールを維持するには、改修・管理負担が大きすぎる。そこで、専門家や保護者等で構成される「(仮称)学校プールの在り方検討委員会」を設置し、今後のプールの在り方についてしっかりと議論すべきと思うが、見解を伺う。

教育長 校長会とか担当レベルでいろいろ検討しています。ご指摘を重く受け止めて対応していきます。

問 イノシシ対策にどのような助成があり、どれだけ利用されているのか伺う。

農政課長 宮城県補助事業と、岩沼市単独で実施している補助事業があり、県のは、平成25年度から補助総額で約1030万円、主に電気柵の設置で総距離数が約46km。また、市のは、平成27年度より電気柵や鳥獣対策の機器を購入する際の補助事業を設けてあり、12件で約50万円の補助実績となっております。

問 市街地にイノシシなどが現れたときの対策は何か考えているのか伺う。

農政課長 関係機関、警察、猟友会と連携をとりながら、人身事故、交通事故につながらないような対応を迅速にとっていきます。

超音波撃退装置の実験を

問 宇都宮大学とモハラテクニカが開発したユースニック、広島大学と長岡鉄工建設が開発したNIGETEC(ニゲテック)は、どちらも超音波による撃退装置で、

実験の結果も100%撃退できているという。トヨタ等でも採用しているが実証実験を行なうのはどうか伺う。

市民経済部長 資料などを取り寄せ、勉強していきます。

問 先日も長命ヶ丘でクマが出没したことがあったが、小・中学校や公共施設ではどのような方法で安全を図るようになっていくのか伺う。

教育次長 出没情報が教育委員会に入ったときには、対象となる学校へすぐさま連絡をして、登下校時の注意喚起を行います。また、情報の内容によっては、保護者に対して下校時のお迎えをするように要請する場合も出てくると思われます。あわせて西公民館など公共施設についても同じく情報伝達を行い、初めに利用者への注意喚起を行います。

◎その他の一般質問

・消防団員の安全

・ハナトピア岩沼

・

・